



(4,000円)

特 許 願 65

昭和 50 年 11 月 14 日

特許庁長官 殿

発 明 の 名 称 エイモロシヤクデンリキ キヤイロ コロ
永久磁石電動機の制御回路

発 明 者

在 所 茨城県勝田市大字高場 2 5 2 0 番地

株式会社 日立製作所 佐和工場内

成 員 外 山 仁 一

(ほか 1 名)

特 許 出 願 人

在 所 東京都千代田区丸の内一丁目 5 番 1 号

名 称 (510) 株式会社 日 立 製 作 所

代 表 者 吉 山 博 吉

代 理 人

在 所 東京都千代田区丸の内一丁目 5 番 1 号

株式会社 日立製作所 内

電話東京 270-2111 (大代表)

氏 名 (6189) 弁 理 士 高 橋 明 夫

方 式 審 査 50 136265



明 細 書

発明の名称 永久磁石電動機の制御回路

特許請求の範囲

コンタクタの励磁コイルに並列に接続する素子を変更することにより、スイッチ遮断後における励磁コイル電流の減衰時間をかえ、コンタクタ遮断にいたる遅れの異なるコンタクタを複数個使用し、コンタクタの遮断順序を規制するようにしたことを特徴とする永久磁石電動機の制御回路。

発明の詳細な説明

本発明は、界磁が永久磁石形の直流モータの抵抗式制御器に関するものであり、特に電圧の発生しているアーマチュアを直接コンタクタにより、短絡することがなく、発電ブレーキ力を低減し、コンタクタの損傷を防止するための発明である。

従来、電動車のモータ界磁には、巻線を使用する方式のモータが利用されてきたが、最近永久磁石材料の進歩により、効率の良い永久磁石形のモータが使用されるようになり、それに対応する技術が必要になつた。この形のモータでは、界磁が

(1)

① 日本国特許庁

公開特許公報

① 特開昭 52-60924

④ 公開日 昭 52.(1977) 5.19

② 特願昭 50-136265

② 出願日 昭 50.(1977) 11.14

審査請求 有 (全3頁)

庁内整理番号

6903 58
7189 58

⑤ 日本分類

55 C210.2
55 0212

⑤ Int.Cl?

H02P 7/00
H02P 3/12

識別
記号

磁石のため、アーマチュアが回転している限り、常にアーマチュアに起動力が作用している。

このため、車を停止する時にアーマチュアをコンタクタで短絡し、電流が流れる閉回路ができると、過大な発電電流が流れ、ブレーキ力が作用し、車はすぐ停止する。このことは、バッテリーなどを電源とする車体にあつては、惰行が少なくなり不利である。

本発明は、コンタクタの励磁コイルの両端に取りつける回路素子によつて、電気的な遮断に到るまでの時間を設定し、簡単な方法で目的を達する方式を提供するものである。

アーマチュアを含む閉回路ができる時には、必ず閉ループ内に抵抗を挿入してから、閉回路ができるようにし、この抵抗により発電電流を抑制するようにした。また、アクセルなどのスイッチが閉路した場合、コンタクタの励磁コイルに並列に挿入した回路素子により、スイッチが遮断してからコンタクタの電流遮断までの時間の異なるコンタクタを用意し、抵抗を短絡するためのコンタクタ

(2)

が遮断してから、後後のコンタクトが遮断され閉回路ができるようにしたものである。

以下第1図により実施例について説明する。

図において、1はバッテリー、2は永久磁石モータのアーマチュア、3は前進用コンタクトであり、4は前進コンタクトの常開接点であり、5は常閉接点であり、6はその励磁コイルで、6が励磁されると、接点4は閉じ、接点5は開放するものとする。8は後進用コンタクトで、9はその常閉接点、10は常開接点、11はその励磁コイルであり、11が励磁されると、接点9は閉じ、接点10は開放する。励磁コイル6および11には、それぞれダイオード7、12がそれぞれ並列に接続されている。このダイオードは、バッテリーのマイナス側に陽極が接続され、陰極は、励磁コイルのプラス側に接続されている。

これらの励磁コイル6、11のプラス側は、前進用スイッチ18および後進用スイッチ19をへて、バッテリーのプラス側に接続されている。

13はモータのアーマチュア2に流れる電流を抑

(3)

4が開放し、接点5が閉じることになる。接点5が閉じると、図示の方向に発電電流が流れることになる。しかし、この時には、すでにコンタクトの接点14が開放しており、抵抗13が閉回路に挿入され、発電電流を少なく抑制することができる。また、この方法によれば接点5が閉合する際の投入電流を少なくし、接点の閉合時に発生する磨着などを防止することができる。実験例によると、励磁コイル15にダイオードおよび150Ωの抵抗を挿入した時、スイッチ20が開放してから、接点14が開放する迄は約12msであつた。また励磁コイル6にダイオード7を並列に接続した場合、スイッチ18が開放してから接点4が開放する迄では約30ms、接点5が閉合する迄は約34msであつた。

ダイオード7、12、16はスイッチ18、19、20に生ずる開放時の火花を抑制する効果のあることは勿論である。勿論、スイッチ20の火花による損傷が問題にならない時は、ダイオード16、抵抗17などを除去しても良い。本回路では一実

(5)

制し、モータの高回転を阻止するための抵抗器である。14は抵抗器13を短絡するためのコンタクトの接点であり、15はその励磁コイル、16はダイオード、17は抵抗、20はスイッチである。

上記に述べた回路は、次のように動作する。前進用スイッチを閉じると、励磁コイル6に電流が流れ、前進用コンタクト3が動作し、接点4が閉じ、接点5が開放し、モータアーマチュア2は、前進方向へ低速で回転する。次に接点20を閉じると励磁コイル15に電流が流れ、接点14が閉じ、抵抗13が短絡されるため、モータのアーマチュア2は、前進方向へ高速で回転する。アーマチュア2が前進方向に回転している時は、図示の方向にアーマチュア2の両端に電圧が発生している。アクセルなどを急激に停止位置に戻し、スイッチ20および18が同時に遮断された時を考えると、励磁コイル15にはダイオード16と抵抗17からなる並列回路素子がついているため、励磁コイル15の電流の方が励磁コイル6の電流よりも早く電流が減衰し、接点14が先ず開放し、次に接点

(4)

実施例を上げたが、励磁コイル6、11および15の各励磁コイルの両端に挿入される素子としては、下記の条件が確実に実施されるものであれば任意のもので良い。

励磁コイル7、11の電流の減衰の早さく励磁コイル15の電流の減衰の早さ

従つて、コンタクト3、8の遮断の遅れ時間>コンタクト14の遮断の遅れ時間

以上は前進方向のみについて動作を説明したが、後進方向の動作も、図1中のアーマチュア2の発生電圧や、閉回路の時電流方向が反対となるだけで同じように動作する。

永久磁石モータのみで述べたが、分巻モータ、複巻モータなどにおいても応用できることは、明らかである。

このようにスイッチ遮断時のアークを抑制するために使用される励磁コイルの両端に挿入する回路素子を少し変形させるだけで、必要とする目的を達することができ、非常に安価である。

通常の遅延リレーや、その他の遅延時間制御を

(6)

